

能・ポトマック桜

―尾崎行雄とエイブラハム・リンカンの夢―

上田邦義

2012年は「ポトマック桜」百周年。本台本はそれを記念すべく「尾崎行雄の霊に捧ぐ」として創作されたが、2011年から15年がアメリカ南北戦争百五十周年に当たり、この新作能『ポトマック桜』には、尾崎行雄・相馬雪香とともにエイブラハム・リンカンの霊も登場するので、この間、全米各地で上演されるに適わしい。すなわち、この能は、桜まつりを祝賀するとともに、今日世界最大の課題である真の民主主義、「人民のための政治」、そのための「武力（戦争）」によらない平和」の達成に答えんとするものであり、それが正に尾崎が生涯を賭けてその実現を追究した課題であった。また、2012年3月は、東日本大震災から一周年であり、亡くなられた数知れぬ方々の御霊を併せて追悼するものである。

あらずじ

〔前場〕 尾崎行雄（東京市長）は、日露戦争を和平終結に導いてくれたアメリカに感

謝し、1912年、東京市からワシントン市に桜の苗木三千本を贈った。やがてポトマック河畔に美しい桜並木が出来上がった。その後尾崎は娘の相馬雪香を伴い訪米の折、公用を終えポトマック河畔を訪れるが、すでに葉桜となり誰ひとり桜人はいなかった。するとそこに一人のアメリカ人が現われ、アメリカ建国の父ワシントンもリンカンも桜を愛好したといい、問答するうちに、南北戦争では六十万人以上の犠牲者が出た。そしてリンカンは戦後まもなくワシントンの劇場で夫人と観劇中、予期せぬ暗殺に遭い、政治生命半ばに無念の生涯を閉じたと語り、さらに語りたいたので、リンカン・メモリアルで今夜会いたい、と言って消えた。

〔アイ語り〕（今回は登場せず。間奏曲あり）ニューヨークの日本料理屋の経営者（アイ狂

言）が登場し、このたび尾崎翁をアメリカへ招いたのは実は自分である。翁は桜の苗木を二度贈っている、など裏話を紹介する。さらに翁は自分や党派のためではなく常に国民全体の利害を考えて行動する勇氣と行動力のある政治家で、明治以来、自由民権・憲政擁護・普通選挙・婦人参政権などの運動の先頭に立ち、日本に民主主義を実現すべく、大正・昭和と日本国内の軍国主義化の風潮に抗して、人道主義・平和主義の立場に立つて行動した偉大な政治家である。翁のような平和主義者が日本に百人いたら、あんな愚かな太平洋戦争などは起こらなかっただろう。このたび『ワシントン・ポスト』紙は、社説で二回翁を取り上げ、日本最大の民主主義者と讃えている、と尾崎を称揚する。

〔後場〕

桜の精に導かれ、尾崎がその夜、リンカン・メモリアルへ行くと、かの老人が現われ、実はリンカンの霊であると名乗り、南北戦争を回避できなかった苦悩を述べ、南も北も自らの正義を主張し戦闘が五年も続いたのは、神の意志に適わぬ戦争であったゆえか。建国の父たちは、人は神の分霊をもつもので、それが人権の基であり、民主主義の根底と考えていた。その内なる光を呼び覚ますべきだ、殺し合ってはいけいと語り、「最後の決着を戦争に訴えるのは真の政治ではない」「闘うな。殺すな」と語り、桜樹は霊木。人も霊性を呼び覚ますべきと、尾崎と共に舞う。尾崎は、自分は神とは無縁と思っていたが、目指したモットーが正しかったことを確信する。夜明けとともに老人の霊は消え失せる。

登場人物（役名表記）

前場 尾崎行雄・号堂（がくどう）（尾崎）

相馬雪香（尾崎行雄の娘）（娘）

アメリカ人男性（男）

間狂言、ニューヨーク日本料理屋（今回無し。プログラムに掲載）

後場 尾崎行雄

桜の精

エイブラハム・リンカンの霊（リン）

季節 春

所 ワシントン市

前場

次第ヨワ尾崎「外国サラリとつくによりの花だより。外国よりの花便

り。花の友人訪ねん ともびと 地謡「外国よりの花便

り。花の友人訪ねん ともびと

名宣尾崎「これは尾崎行雄または「罌堂サラリと申す者

なり。かつて「東京市長たりし時。ワシントン

市へ桜の苗木を「三千本送りしことあり。この

たび所用しよようにて「アメリカへ参りたれば。またか

の桜をも見に行かばやと「思ひ候

サシ地「それ明治は三十八年。日露戦争終結に。

アメリカよりの幹旋あっせんにて。日露講和は成立せ

り。その御礼に贈りたる。桜の苗木三千本。

これポトマックの。桜並木の由来なり さくらゆらい

尾崎「「急ぎたるほどに。はやポトマック河畔に」着

娘「あれ。父上。これはすでに「葉桜となりたる はざくら

よ

尾崎「ポトマックの桜をながめ月に酔い。雪をめでつ

つ我身終えなむ

呼掛男「なうなう。そなたは桜の国「日本よりのご にっぽん

来訪にあらずや。もしやこの桜樹の「贈り主 さくらぎぬし

にてましまさぬか 尾崎「さやうなれども

御身は「いかなる人におはしますぞ 男「我は おんみ

このポトマック桜を「愛づる者なり。建国の父「 けんこくちち

ワシントンも。桜樹を「愛でられたり 娘「そ さくらぎぬめ

れわが国にても」知らぬは無し。正直は最善しやうじしき さいぜん

の策との「教へなり。またリンカンは若き日イさく

リノイの「村人たちに。正直エイブと」愛称さむらびと しやうじしき あだな

れし 男「「あら懐かしや。イリノイに」再びコメテ なつ

帰ることなかりき カカル「落花枝に帰らず不 合 らつかえだ

も。流水の情ともいへりりうすい じやう

上歌 地「一千八百六十年。打切一千八百六十年。ツヨ

リンカン五十一の春。「分裂れし家は立ちごじういち わか いえ

行かず」と。訴え大統領に選まれて。首都ワえら

シントンへ赴かんと。故郷イリノイを離るるおもむ ふるさと はな

に 男「われ計らずも。建国の父に劣らぬ荷はか に

を負ひぬ。いつまた故郷に帰れるや」地」と。お こきやう

涙ながらに語りたる 尾崎「さらにゲティーじんみん

ズバーグにて。「人民の人民による人民のため

の政治は。この地上より消ゆべからず」とせいじ

男「さと言ひたれどそははまだ。実現されヨコ

ざる理想なりし「情けなや。思えば長きゆめ なさ

南北戦 地「六十二万人。いやその上の血を流し。疲れなんぼくせん ツヨ・合

果てたるリンカンな。一日夫人に誘はれて。いちじつふじん

フォード劇場観劇へ。貴賓席にも着きたれば。きひんせき 確り

護衛は酒場へその隙に。忍び寄りたる黒きごえい さかば ひま ススメシの

影。奴隷解放許さじと。ドアを開けるやリン

カンの。背後に近づき。そは今ぞと。「間」

発射したれば「間」あれよと夫人が叫ぶ間

に。悪漢階下に飛び降りて。楽屋口より逃

げ去りぬ。人々これを聞き。悲嘆に打ちひし

がる「間」

詞

地「かくて翌朝六十五年四月十五日。南北

戦後。六日にて。リンカン息を引き取りぬ。

「巨大なる魚を捕らへし船長の。その最期こ

そ哀れなれ」「娘、中入り」

男「われ。志半ばにて。夢。絶たれたる。

悔しきよ

地「眞の友人よ。さらに語るべきことあれば。

今宵は月の出を待ちて。リンカン堂にて会う

べしと。かく言ひ捨ててかの姿。幻の如。幻

の如く消え失せり「中入り」

間語（今回なし。代りに囃子、間奏あり）

これは。ニューヨークに。日本料理屋を営む者でござる。こたびは日本

より。日本最大の民主主義者尾崎行雄・罌堂翁をアメリカへお招き申

した。尾崎氏は東京市長のとき。ワシントン市へ桜の苗木三千本を贈つ

てくださった。それと申すも。明治三十八年。日本が日露講和を締結

できたは。セオドー・ローズヴェルト大統領の斡旋によるもの。尾崎翁は

その謝意をアメリカ側に伝えたかった。

そこへ次のタフト大統領の夫人へレンさんから。ポトマック河畔を日本

の桜で飾りたいとのご意向が伝えられた。もつとも最初の提案者は、旅

行作家で写真家のエライザ・シッドモアさんのこと。そうして桜の苗木

は、最初、実は三年前に、二千本送られたのでござる。だが病害虫に犯

されたものがありすべて焼却処分されてしまった。そこで再度、今度は三千本の確かな苗木が送られ、植樹された。一千九百十二年。ワシントンの桜並木は、かようにして誕生致した。日米友好親善の生きたシンボルでござった。

ところが日本は、かかる恩義と国際感覚を失い。太平洋戦争を始めてもうた。「私がニューヨークにあつてつくづく考えましたは、」もしも日本に百人の尾崎翁ありせば。かかる愚かなる戦争は起こさなかつたであろうと。戦後は多くの日本人がアメリカへ来られますが。アメリカ人の心を和らげる人は一人も来られない。それができる人は。明治から今日まで終始一貫戦争に反対して来られた尾崎翁以外にない。私は三年前から尾崎翁のアメリカ訪問を計画し、その一番よい時期は桜の時と思いましたが、職務の故に間に合わず、誠に残念でござった。

じゃが。この度のご訪米には、『ワシントン・ポスト』紙が二度にわたり社説を書き申した。桜の巨人。日本最大の民主主義者歓迎と。議会发生六十一年。連続当選すでに二十四回。世界にも類例がない。しかもこの間一貫して、自己や党派や派閥のためではなく。常に国民全体の利害を考え。国際協調主義・平和主義を貫かれた。偉大なる政治家であ

ると。

アメリカ人の老記者たちは。アメリカ上院が外国人にこれ程の好意を示したことはかつてなかったと。また先生が会議や晩餐会で述べられたことは。大きく新聞紙上に報ぜられた。世界各国は、狭い民族主義や国家主義。国益主義を捨てて。世界主義に立たねばならぬ。さもなくばいつまでもたっても戦争はなくならぬ。民族主義ではなく国際理解の教育が肝要であると。

また尾崎氏は、「法律というものは、それが作られたときの精神が大事故だ。字句等に惑わされてはならない」と。これは先生が尊敬しておられるエイブラハム・リンカンの言葉とのこと。先生は日本にかのリンカンの「人民のための政治」を実現せんと生涯努力してこられた。「断じて戦争を起こしてはならぬ。戦争を起こせば不幸になるのは国民である」と。そして「軍縮」を唱えられ、「真の国防は武力にあらず。敵を作らぬことである」と。

太平洋戦争末期、昭和二十年七月、アメリカの飛行機B29が東京上空から、戦争終結宣伝のビラをまいた。そこには「日本には尾崎行雄のような平和主義・民主主義に徹した立派な政治家がおる。かような

人を引き出して、早く平和な日本をつくれ」と書かれておったと。所が当の尾崎氏は。日本では。国賊と罵られ。迫害されておられた。

先生のモットーとされたことは。「二つのフセン」。普通選挙と戦わない不戦。すなわち民主主義と平和主義。また最近では「二つのタボウ」。年を取るほどに望みは多く。忙がしくなる。

東京では国会にも永田町の憲政記念館にも。先生の銅像が建てられてること。そこに刻まれた先生の言葉に曰く「人生の本舞台は常に将来にあり」と。先生のあだ名は、「憲政の神様」。

故国懐かしさゆえに長話になってしまった。お許しくださいませ。

後場

サシ 尾崎「夢か現かかの姿。真やエイブ・リンカン

の。幽霊仮に現れて。我と言葉を交はし

けるか。言はるるままにリンカンの。記

念堂には来たりたり 地「これまさに。

ギリシャ神殿。リンカンの御霊祀りし記

念堂。奥にまします御姿。尾崎「彼方に

眺むはキャピトル。ドームに至る広場

あり 地「幾百万の人集い。心一つに祈

りなば。いかなる夢も叶ふべき

尾崎「月の出遅しと待ちいたり

囃子入り 桜の精(娘・変身)登場

天女舞様を舞う

リン「嬉しや桜の友人よ。汝が功德にて今宵また。

語らひ合へる嬉しさよ 尾崎「さても

不思議のことやらん。われはこれまで。神

霊魂とは無縁なりし

詞
リン「民を愛ふ。そなたの想念」強きゆへ 尾崎

「それ人民の」ためなれば リン「それぞ悔

しき」わが念願。あの世に逝きて」なほこの

世に。願ひし想念の」残れるを 尾崎「聴く

べしさらばいざ語れ リン「覚めて聴くべき

物語

クリ 地「それ時は一千八百六十一年。南北戦ひ

避けられず。戦なれば民人同士の殺し合

ひ

サシ リン「南北の聖職者 地「それぞれ戦勝を同じ

神に祈りたるか

リン「神よ。彼らを赦したまへ。その責任は全て

われにあり

地「六十余万の血を流し。御心の。いづこにあり

しやらん

クセ 地「この世は。いまだ御国にあらざれば。正義

を振りかざし。戦はんよりか。今は南北

に別れて。二国を成すべきなりしか。さ

れば戦は避け得たり

リン「これを思へば。われに平安あるべからず

地「正義は勝つべしとの信念。南北戦に始まりて。

この国人を圧倒せり。その正義とは。自由と

権利。それぞれ己を主張して。調停ならず

ば。戦争による決着。これ眞の政治なるや。

とおは あらそ めざ
党派を争ひ。目指すところに。神の御心ありこころ
りや。

拍不合
リン「わが建国の父祖たちは 地 「人はす
ちち ウケテタツブリ

べて神の御霊を分けもつと リン「それ人権
みたま じんけん

が基。内なる光 地「人はすべて神の御霊を
もとい うち みたま

分けもつと。されば。人を殺すな。戦こうな。

これ我が伝言なり。伝えてよ

リン 尾崎「殺すな。戦こうな。殺すな。戦こうな

イロエ掛り・舞

引立テテももとせ

尾崎 「百年をこえて命のなほあらば ノル地
いのち ウケテ

ユツタリつきゆきはな

「月雪花に身をまかせなむ。月雪花に身
つきゆきはな

をまかせなむ リン「桜樹に靈力あり。人
スラリさくらぎ れいりよく

に靈性呼び覚ませや 地「人に靈性呼び覚
れいせい れいせいよびさ

ませや 尾崎 「「人生の本舞台は常に将来
スラリ ほんぶたい つね みらい

にあり」

ノル 地 「うれしや今宵は。桜樹の奇特。心開
ウケテユツタリ さくらぎ きとく

けし。花の友人。汝が国人も。わが国人も。
ともびと な くにびと

世の人すべて。心一つと。世の人すべて。心

一つと。祈る心の桜花。祈る心の桜花。や
さくらばな

がてほのぼの夜は明けて。やがてほのぼの夜

は明けて。翁の影は失せにけり
おきな

(なお、この台本の制作には、何人もの方から作補協力をいただきました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。上田。2012.3)